

4 ヨコバイ(サカキ害虫)の発生状況の調査 (県単: R1(2019)～)

多良 勇太

1 はじめに

近年、県内のサカキ生産地で葉に白点が無数に生じる被害が発生している。捕獲された害虫の同定を九州大学に依頼したところ、原因は他県でも被害が発生しているオビヒメヨコバイ属の新種と同定された(以下、ヨコバイとする)。このヨコバイは、学名を *Stictotettix cleyarae* と記載された(Ohara et al. 2019)。

白点が発生したサカキは商品価値が低下することから、適切な防除が必要となる。ヨコバイの生態や薬剤試験については他県において既報の成果があるものの、佐賀県における被害の実態を把握することで効果的な防除に寄与することを目的として、県内の被害状況を調査した。

2 調査方法

試験地(詳細を表-1に示す)で葉の被害の進行調査を行った。立木8本を選定し、それぞれ約0.5m高、約1.0m高、約1.5m高の枝を選び、葉の数とその内被害にあった葉数を調査した。なお、白点が1点以上ある葉は被害葉とし、平成30年に展開した葉(以下、2年葉とする)と令和元年に展開した葉(以下、新葉とする)は区別した。

3 結果及び考察

図-1に2年葉の被害率の推移を、図-2に新葉の被害率の推移を示す。被害率は被害葉数の合計を調査対象葉数の合計で除したものとした。枝の高さで被害状況が異なり、高い枝の葉よりも低い枝の葉が、被害率が大きい傾向が見られた。下方の葉から生じ始め、高くなる程下方に比べ被害発生時期の遅れや被害程度が軽減化の傾向にありとの報告(坂本・坂口 2017)と一致している。

ヨコバイの発生時期については、年間を通じて繰り返し発生するため、捕獲のピークは明瞭ではないものの、春から初夏と秋から初冬にかけて発生する二山型ではないかと考えられたとの報告がある(坂本・坂口 2017)。今回の調査で、2年葉は調査開始時の4月から継続して被害が進行し、9月までに大部分の葉が被害を受けている。秋から初冬にかけての発生傾向は今回の調査では読み取れないが、春から初夏にかけて発生する傾向は佐賀県でも同様であると考えられる。

新葉は展開して間もない頃(5月調査時点)には被害は見られなかったものの、6月からは被害が見られた。7月は被害が確認されず、新葉の硬化が概ね終了する8月から被害が生じ始めたとの報告(坂本・坂口 2017)とはやや異なる結果となった。新葉被害の開始時期については地域の気候の差や標高差について留意する必要があると思われる。

引用文献

Ohara, N., Hayashi, M., & Kamitani, S. (2019). New genus of dikraneurine leafhopper (Hemiptera: Cicadellidae: Typhlocybinae) from Japan, with description of two new species. *Zootaxa*, 4629: 271-279.

坂本淳・坂口和昭(2017): サカキの新たな吸汁被害の防除に向けた生態等実態調査 発生消長等の調査, 和歌山県林試業報 No. 75: pp27-28

表-1 試験対象詳細

試験地	佐賀県基山町	枝高	調査対象枝数	調査葉数合計	
標高	約170m	2年葉	0.5	5	42
栽培環境	ヒノキ人工林内		1.0	7	87
調査対象木	8本		1.5	8	126
平均樹高	3.4m	新葉	0.5	5	51
平均胸高直径	2.7cm		1.0	7	76
			1.5	8	162

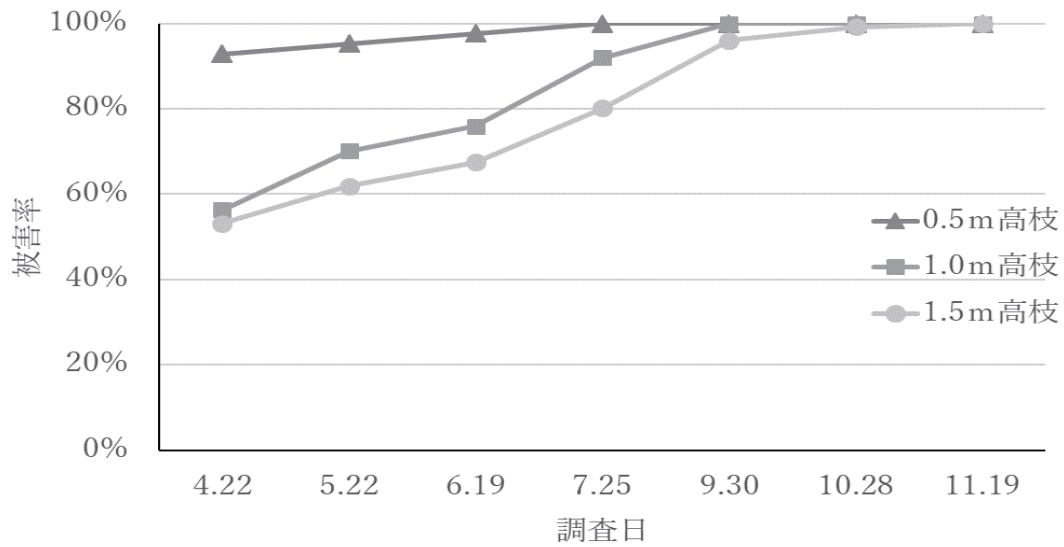


図-1 2年葉の被害率の推移

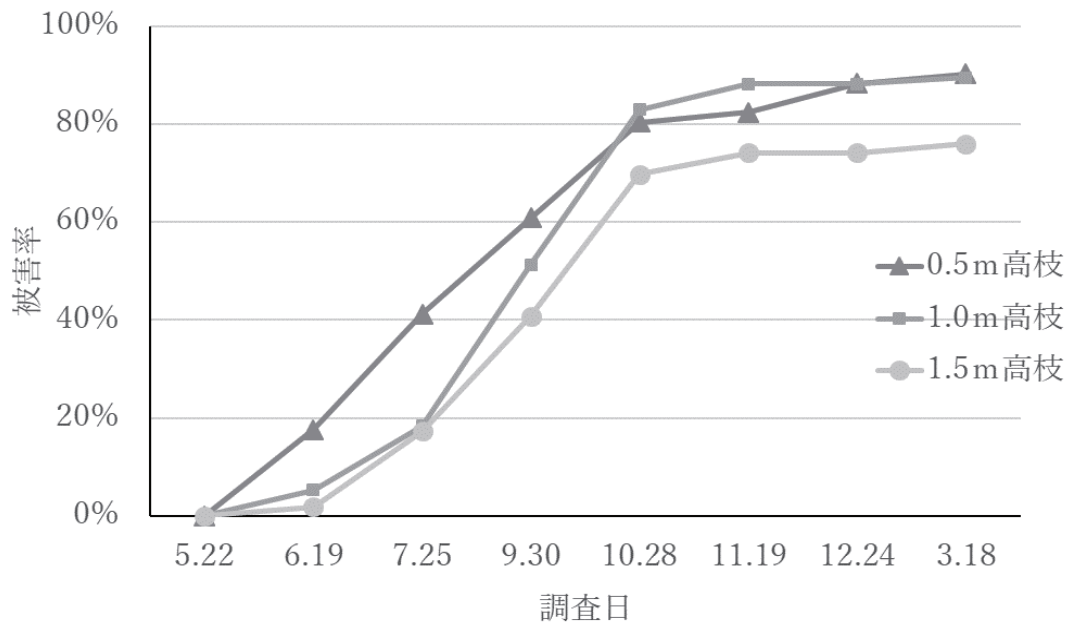


図-2 新葉の被害率の推移